

日本海水学会第12回若手の集いを終えて

日大生産工 岡田昌樹

平成24年6月7日～8日にかけて日本大学生産工学部において開催された日本海水学会第63年會に先立ち、若手の集いが京成大久保駅近くの「生香園」において開催されました。特別な企画なしに参加者を集められるか心配もしましたが、最終的に34名の若手技術者、若手研究者にご参加の申込を頂きました。會は若手會會長の石川匡子先生(秋田県立大学)の開會のご挨拶の後、本年4月より日本大学生産工学部に赴任された松本真和先生による乾杯のご発声により開催されました。途中、評議委員會を終えられました評議委員の先生方にもご参加頂き、最終的に約40名の若手が集う大変賑やかな若手の集いを開催することができました。評議委員の先生方にご参加されたところで、改めて日本海水学会會長であり、私、松本先生の恩師でもある尾上薫先生(千葉工業大学)にご挨拶頂き、その後、年會の実行委員長であり、現在、私が所属する研究室のボスである日秋俊彦先生(日本大学)に乾杯のご発声を頂きました。また、豊倉先生、東郷先生からも重みのあるお話を伺うことができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。また、そこかしこで研究の話・・・ばかりでなく色々な話題で親睦が深められました。私自身、日本海水学会若手會の幹事を務めさせていただいておりますが、日本海水学会若手會は大変アクティビティが高く、他分野の人材が集う大変エネルギッシュな會だと感じます。今回の若手の集いにはこれまで日本海水学会には余り縁のなかった生産工学部若手教員も多数参加させていただき、日本海水学会の懐の深さを感じました。近い将来、この若手の集いの會話から大輪の花が咲いてくれればと願っております。



写真1 松本先生による乾杯



写真2 豊倉先生のご挨拶

若手の集いにおける熱気は年會初日に開催された若手會主催の技術交流ポスターセッションにも引継がれ、様々な技術分野にわたる37件もの発表が開催されました。75分間という長丁場の発表でしたが時間が短く感じられるほど盛況のうちに発表会を行うことができました。審査の結果、親潮賞ならびに黒潮賞

に以下の 4 件の発表が選ばれました。受賞されました若手研究者、技術者の皆様方の益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

・親潮賞

菅原克生 (MMC スーパーアロイ(株))

「製塩装置材料としての Ni 基耐食合金」

森裕一朗 (ダイヤソルト(株))

「製塩苦汁中における銅イオンの挙動」

・黒潮賞

内山翔一朗 (千葉大・工)

「海水中からの放射性物質の高速除去をめざした吸着繊維の開発」

角田出 (石巻専修大・理工)

「健全な生物生産を目指して-生き物を病気から守れ！-

ところで、残念ながら私の研究室から発表した学生は選からもれてしまいました。しかし、聴講してくださる方々に少しでも自分の発表内容を上手く伝えたいと、発表の直前までポスターを修正していた心意気は受賞に匹敵する価値を持つと思います。若手研究者や技術者が発表内容に対する自分の思いを熱く伝え、それをキッカケにお互いに win-win の関係を築く交流が実現する。技術交流セッションがそのように成熟していったと感じました。



写真3 賑わう技術交流セッション会場



写真4 上手く思いは伝えられましたか？

末筆になりますが、今回の若手の集いならびに技術交流セッションの企画・運営にあたり、研究室の学生を含めまして、多くの方々のご協力を頂きましたこと心より感謝申し上げます。特に若手の集いの事務局を引き受けてくださいました正岡功士様 (塩事業センター)、要旨集の編集作業やポスター会場の設計を引き受けてくださいました三角隆太先生 (横浜国立大学) には心よりお礼申し上げます。

*日本大学生産工学部

TEL:047-474-2542 Fax:047-474-2579 E-mail:okada.masaki@nihon-u.ac.jp